

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic Written English II		
英文授業科目名	Academic Written English II		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 知能機械工学科		
担当教官名	佐藤 美弥子		
居室	東1-615		

公開E-Mail	授業関連Webページ
satoh@cs.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>英文も、和文同様、話し手が話す順序で、書き手が書く順序で、組み立てられているのであるから、聴き手も読み手も、その順序に従って聴き読むことでのみ、文章を正確に、かつ迅速に、理解できるのである。この授業では、書かれた文章のみならず話された文章をも素材とし、書き手、話し手の思考過程を辿る訓練を繰り返すことで、「精読」と「速読」という一見矛盾する技術を同時に獲得して貰う。</p> <p>聴き、読んだ文章の理解を「音読」で試すこともする。</p> <p>更に、授業で扱う英文を「合成音声」（今や「標準英語」と言えるまでに普及している）に再生し直し、聴く訓練と発音・抑揚の練習の補強に用いる。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>Academic Spoken English I, Academic Written English I</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p>

<p>【教科書等】</p> <p>プリントを配布する。 参考書：『語源中心受験英単語1300』（エイブル語学研究社、1993）</p>
--

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

上記【主題および達成目標】参照

週二回の授業で、多種多様な素材を取り扱う。この授業では「読む」「聴く」「発話する」の3技能を鍛える。進度は、素材の内容と受講者の反応に応じて調整する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席(欠席回数が総授業回数の三分之一を超えると失格)、授業中の活動、発言、小テスト、期末試験(もしくは課題)、リズム学習の成果を、成績評価の対象とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。授業終了後が不都合な場合は、教員と学生双方に都合のよい日時。

【学生へのメッセージ】

文章作成過程は、思考過程そのものである。それを母国語で再確認する一方、英語で体験して貰い、最終的には英文を「書く」という行為へ繋げる。

【その他】

火曜日開講の Academic Spoken English II と連動しているので、一方を履修すると他方も履修することになる。